

「当間山山開きと市民山頂登山」 参加報告 2016年6月5日（日）

当間山(あてまやま)は、新潟県の中部、十日町市に位置しています。標高1,028.5m、地元の方々に親しまれ、小さなお子様からお年寄りまで気軽に自然を楽しむことができる山です。

この日は山開きということで、中越森林管理署の職員も山登りに参加させていただきました。



山開きの神事後、午前9時頃に総勢46名で登山を開始しました。

天候は快晴、日差しが強く汗ばむ陽気でしたが、木陰に入ると涼しい風が感じられて心地良かったです。

↑ 登山道入口の案内図で見所を紹介しています。

同じ内容の紙の地図も → 用意されています。



熊注意の看板と熊除けの鐘(共に水沢商工会寄贈)。→ 熊の存在を意識すると同時に、人間の存在を熊に知らせてから森に入ります。

林の中は思ったより明るく、**エゾハルゼミ**(岩手では鳴き方から**ヤヘイゼミ**と呼ばれているそうです)や**ウグイス**、**アカショウビン**などの声(残念ながら姿は見られませんでした)が賑やかなBGMとなっていました。



← **アカショウビン**

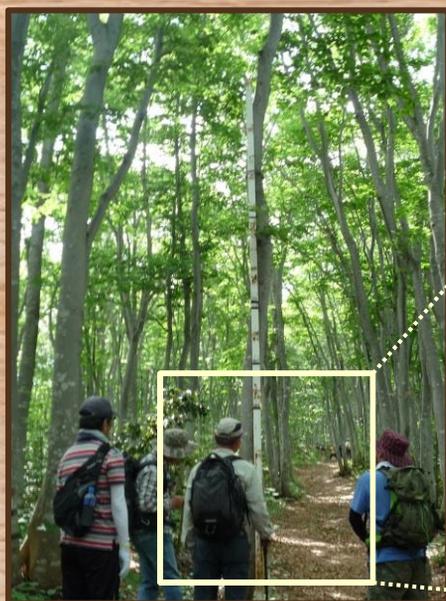
日本では夏に見られる渡り鳥です。

※写真:写真素材 足成 (www.ashinari.com)より引用



国有林も含まれる登山道は、**当間山山麓活性化推進連絡協議会**の方々が丁寧に整備してくださり、安心して歩けるようになっています。

← 立派なブナ林。炭焼き用に伐採された後、切り株が一斉に芽吹いて大きくなったため、ブナの勢いが他の木を上回りました。



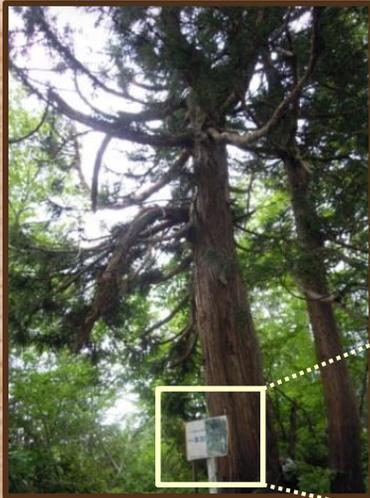
← 木に取り付けられた積雪計で、各年の積雪量が確認できます。毎年3月15日に計測されています。

林の中ばかりではなく、下界と空が望める開放感のある道も通ります。

ここも適切に整備されていますが、林の中に比べると木の根などが多いため、景色に見とれて足を取られないように注意が必要でした。



← 道中の個性的な木は、看板でわかりやすく紹介してあります。これらの看板も、当間山山麓活性化推進連絡協議会の方が設置してくださいました。



↑ 見晴台前の難所、74段(実測:職員)の急な階段です。



↑ この場所から見える山々の紹介。天候に恵まれれば、佐渡島まで望めるそうです。

見晴台(標高約920m)では素晴らしい展望が待っていました。少し先の三角点までたどり着いた後、職員は元の道を引き返しました。



← 根元がボコボコと膨らんで貫禄がある様子を表現した名前だと思われます。

← 落ちてくる枯枝から登山客を守るため、木の周囲にはロープが張られています。

看板は随時修繕されています。→ この日はボランティアの方の手によって、通行止めの情報も追加されました。



← 山道入口から三角点(標高1,016m)までは、のんびり歩いて2時間程。景色は見晴台の方がよく見えました。

下山後はお昼ご飯。熱々の豚汁が参加者全員に振る舞われ、疲れをほぐしてくれました。

職員も、今年から国民の休日となる「**山の日**」をPRする**しおり**を皆様に配らせていただきました(中越署管内の山々で配布中です)。

山の日、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」日。皆様も身近な山や森に出かけてみてはいかがでしょうか？



↑ 一枚一枚手作りです。

当間山の植物たち

～平成28年6月～



ホオノキ

大きな葉っぱが特徴です。



チゴユリ

小さくてかわいらしい姿です。名前にも入っている通り、ユリ科に属しています。



イワナシの実

梨のようにほのかに甘酸っぱい味がします。

ユキザサ

ササではなく、ユリの仲間です。花を雪に見立てた名で、新芽は山菜として人気があります。



ナナカマドの花と実

同じ場所でも日当たり等の違いで季節の進み方まで違うようです。





ヤマツツジ

見頃を迎えていました。



ウラジロヨウラク

ツツジの仲間です。葉の裏が白っぽく、花色は赤紫～白まで多様です。



きのうじょうき
なりのよ

ギンリョウソウ

別名はユウレイタケです。葉緑素を持たないため全体が白く、光合成もできません。



アカモノ

白い花を咲かせますが、赤くて甘い実を桃に例えて「赤桃」と呼んだのが名前の由来とされています。



クロモジ

黒い枝は、高級爪楊枝の材料として有名です。爽やかな香りがします。



ヤマウルシ

赤い葉柄が特徴です。皮膚がかぶれる激しいアレルギーを引き起こすので、近づかないようにしましょう。

ブナについて

当間山では様々な植物が見られますが、中でも最も目にするのはブナでしょう。登山道から見える林のほとんどがこの木から成り立っています。

ブナは**櫛**(木へんに無)と書きます。この木は比較的高所に生え、水分が多く腐りやすいために、製材や運搬の技術が未発達時代には建築用材として使うことが難しく、他の用途もあまり無かったことからこの漢字で書かれたとされます。

しかし森の中では、落葉によって保水力の高い土を作り、栄養豊富な実によって森の動物を養う「縁の下の力持ち」と呼べる存在です。

～ブナのライフサイクル～

落ち葉に埋もれた→茶色いイガは、ブナの実の殻(殻斗)です。昨年はブナが豊作だったそうです。



中身は動物が食べちゃったよ



↑ブナの**幼樹**です。生長には長い長い時間がかかります。新芽も多く見られましたが、大木になれるのはごく一部です。



↑運良く生長した**大木**です。樹高は約30mまで育ちます。